

少年

第416号(1) 令和2年11月(霜月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 山岸正人



考えをもつ



様々な色の落ち葉が舞い落ち、すっかりと秋も深まり、少しずつ冬の訪れを感じる頃となりました。2020年今年も残り2か月。コロナ禍で生活様式が大きく変わり、当たり前だと思っていた日常は実はありがたかったと気づかされました。そしてこれまで当たり前だったことがその立場を追われ、代わりに新しい当たり前が生まれつつあります。社会は日々、変化しています。世の中が変わる節目になるかもしれません。その変化に向き合い、自分事としてとらえ、考え、判断し、行動していくことが成長につながるはずです。

目を開く

「ハイチの歴史についてたくさんの本を読んできたし、父もよく話をしてくれる。自分の考えを
持とうとしている」

女子テニスの大坂なおみ選手が全米オープンで2度目の優勝を果たしました。アメリカで根深い人種差別に抗議するMLB「ブラック・ライブズ・マター（黒人の命も大切に）」運動が続く中、大坂選手は犠牲者たちに寄り添いながらゲームに臨みました。決勝まで7試合。暴力でなくなった黒人の氏名を書いた7枚のマスクを用意し、勝ち上がるごとに披露していきました。世界の注目を浴びる大舞台で勇気を奮い立たせ、差別撤廃のメッセージを発信し続けました。マスクで伝えた最も古い事件は8年前。17歳の少年が自警団の白人に撃たれて死亡し、当時14歳で同じフロリダ州に暮らしていた大坂選手にとって「彼の死は、起こっていることに目を開かせる出来事だった」といいます。

世界初の黒人共和国として独立を果たしたハイチ出身の父と日本人の母を持ち、大阪市で生まれ、3歳で家族とアメリカに移住しました。貧困国ハイチの歴史について父から多くの話を聞いていました。

「私はアスリートである前に、一人の黒人の女性。私のテニスを見るより、もっと注意を向ける多くの重要なことがある」。直前に起きた黒人男性銃撃事件に抗議するため、この大会の前哨戦で一度はプレーをしないと声明を出しました。この大会は、沈黙ではなく行動を实践。優勝後に7枚のマスクに込めたメッセージを問われた大坂選手がインタビュアーに「あなたがどんなメッセージを受け取ったのか。それの方が大事です」。多くの人に考え、議論するきっかけを投げかけました。別の機会では、人種差別を他人事のように見ている日本に向けて、日本語で差別問題を訴えました。これはこの問題と共に、身近に潜む差別やいじめ、様々な問題へ想像力をもってほしいという願いでもありました。

「7枚のマスクは大坂選手が世界に放った強いサーブ。それを打ち返すことは、**問題を知り、考え、誰かと話しをすることだ**」。これは新聞の記事にあった言葉です。

グローバル化に伴い、日本においても多様性を重視する社会が求められています。私たちは、大坂選手が提起した問題を自分事として受け止め、目を開き、考えをもつきっかけにしなければ、と思います。

「感じる力を持っている人間は絶対に伸びる」

今年2月に逝去した、日本プロ野球史に残る名捕手、名監督の野村克也氏の言葉を紹介します。

現在の若者を表現する言葉として「指示待ち世代」という言葉が流行った。指示を待つということは、何をすべきか、どう考えるべきかという答えを教えてもらうことでもある。それに慣れてしまっていて、あるいは当たり前だと思ってしまっていて、自ら考えようとしない。そんな若者が増えているというのは、もちろん当人に責任の大半があるのだが、そういう風に育ててしまった大人たちにも半分の責任はある。それが、若者たちから考える力を奪っているのだが、考えるにはまず、感じなくてはならない。思考力のなさは、感じる力、すなわち感性の欠如から始まる。「人間にとって最大の悪は鈍感である」。

一流選手やチームの中心になるような選手は、感じる力を持っている。それが表れるのが修正能力である。一流選手は、同じ失敗を二度と繰り返さない。同じ過ちを繰り返すのは、失敗を失敗として感じる事ができず、その失敗を究明するための考える力がないからである。

感じる力をもっている選手は、絶対に伸びる。感じるということは、ちょっとした変化に気づくことなのだ。この社会は、日々、変化していく。変化の連続である。その変化をいかにして捉え、対応していくかが、紙一重のところでは勝敗を分ける要因となる。あるいはその人間の成長につながっていく。そのためには自身自身で感じる力を養わなくてはならない。

はじめから答えを用意してあげたり、教えすぎたりすることは、鈍感人間を増やすことになるだけだ。

「感じる力」「考える力」のもととなるものは、夢、希望、目的を強く持っていることから湧き出てくるのである。

引用 野村 克也 「人生で最も大切な101のこと」 海竜社

「変化の激しい社会」を生き抜くには「考える力」が必要となります。私たち大人は、忙しい日々の中で、子ども達に対して、つい失敗したことに対して腹を立て、叱ってしまったり、先回りし失敗の芽を摘んでしまったりしてしまいます。まずは、大人たちが日常の接し方を見直すとともに感じる力、考える力を身につけさせることを意識しなければなりません。それが成長の機会となり、主体的な生き方ができる助けになると思います。



発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

https://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html

中学校におけるSNS利用に係わる子供の被害防止等取組の紹介2

子供のスマートフォンの所有率は年々、上昇し、低年齢化も進んでいます。それに伴い、SNS利用に係わる子供の被害が大きな社会問題となっています。

県内の中学校では、このような状況をふまえ、生徒会等の活動として「インターネットやSNS使用に関するルール作り」や「ネットトラブルゼロに向けた宣言作り」等が進められています。

『少年』では、先月号に続き、各学校のルールや取組を紹介し、SNS利用に係わる子供の被害等防止の意識の高揚と普及を推進していきます。

北西中学校

SNS使用の心得3カ条

具体的内容

1. SNSに個人情報を載せない。
(名前、住所、写真など)
2. SNSに悪口を書かない。
(名前を書いていなくても、誰か特定できるようなものはやめよう)
3. LINE等による学年の仲間同士のやりとりは21:30まで。
(勉強時間の確保、マナーのため)

敷島中学校

インターネット・SNS使用ルール宣言

具体的内容

- 22時以降のコミュニケーションアプリの使用はしません。
(返信が来なくても責めたりしません。)
- 相手を傷つけるような内容の投稿はしません
(送信する前に、自分が書かれて嫌なことはないか、考えます。)
- 個人情報は教えません。
(自分の情報も、友達の情報も、個人情報です)
- ネットだけの知り合いは信用せず、会ったりしようとしません。(自分の理想で作られた人物像ではないですか。世の中にそんなに善い人はいません。)

田富中学校

SNSによる被害から自分を守るため

具体的内容

- LINE等のツールを利用する際、書き込み、写真投稿は相手の受け取り方に多様性があることを十分理解した上で行うことを避ける。
- スマホはフィルタリングを行い、家族と利用時間を決めておく。
- 自分や他人(友達等)の情報、画像等発信しない。
- 知らない人とは交信しない。信用しない。

白根御勅使中学校

御勅使中学校 携帯電話・スマホなど利用宣言書

具体的内容

「誰もが安心して生活できる白根御勅使中学校」をつくるために、携帯電話・スマートフォン等の利用について次のことを守ります。

- 携帯やスマホなどは絶対に学校に持ってきません。
- 学校ではいろいろな人たちと直接、話をするを楽しみます。
- 携帯やスマホなどを使ってうそをついたり、人を馬鹿にしたり、面と向かって言えないことを送ったりしません。ネットいじめに関わるようなことも絶対にしません。
- 自分自身や他人のプライベートな写真や情報を送り返しません。
- 【家庭での使用のルールを書く】マナーを守って利用します。しかし、ルールが守れないときは家族に携帯・スマホなどを預かってもらいます。など

白州中学校

白州中PTA 我が家の約束

「スマホ・ケータイ・タブレット・パソコン・ゲーム等の約束」

具体的内容

- 食事中は使いません。電話・メールもしません。
- メールを送るのは1日5回までにします。
- 必要ないサイトにはアクセスしません。
- 夜9時以降は親に預けます。
- 勉強部屋に持ち込みはしません。
- 1日の使用時間は60分までとします。
- 知らない人からのメールは必ず親に見せます。
- 人の悪口や個人情報の書き込みは絶対にしません。
- 携帯電話、スマホを使わない人、返事がない人を仲間外れにしません
- 保管、充電場所は居間にします
- 家にいる時は家の電話を使います。

いじめ撲滅宣言

- パソコンやスマートフォン、携帯電話などで、誹謗中傷や他人のいやがることを流しません。